

プロジェクト 施設園芸で儲かる産地づくり

目標

- ・施設野菜経営体数 R2：335経営体 → R10：382経営体
- ・トルコギキョウの出荷額（県全体） R4：166,590千円 → R10：175,940千円
- ・キクの出荷額（県全体） R4：251,073千円 → R10：258,441千円
- ・冬の農業主力品目の面積（県全体） R3：9,384a → R10：9,854a

挑戦する内容

- ・トマト、ミニトマト、夏秋いちごの安定多収生産
- ・花きの夏秋期生産の強化
- ・冬春いちごを核とした冬の農業の推進

関係者の声
=対話

- 1 トマト、ミニトマト、夏秋いちご、花き
 - ・安定収入を確保するための助成を検討してほしい。高温など異常気象に対応する品種や栽培方法などの対策を指導してほしい（生産者）
 - ・安定的に出荷してほしい（市場）
- 2 冬の農業
 - ・従来より多収で高品質な栽培方法を確立してほしい。経営が成り立つ単価で販売してほしい（生産者）

役割分担

- ・全農、農協：販売戦略、研修開催協力、現地指導、実証ほ等設置運営（冬の農業）
- ・産技センター：高温対策等の異常気象に係る試験研究と技術の開発
冬の農業（いちご、寒締めほうれんそう）栽培技術の確立試験への協力
- ・県：研修開催、現地指導、現地普及展示ほの設置（冬の農業）

変革後の姿

- 1 トマト、ミニトマト、夏秋いちご、花き
 - ・夏秋期の安定生産、環境制御装置やスマート農業の導入により、労働力不足の解消を図るとともに、安定生産により産地を維持
- 2 冬の農業
 - ・「冬春いちご」の単収向上や「寒締めほうれんそう」の機能性表示による有利販売、周年雇用が可能な農業経営体の増加等による冬の農業の収益力向上

令和6年度計画

挑戦する内容

- 1 トマト、ミニトマト、夏秋いちごの安定多収生産の取組
 - (1) トマト、ミニトマトの生産振興
 - ・栽培技術や指導方法、地域の課題等を情報共有するための現地検討会の開催（2回）
 - ・令和6年産の課題を整理し、技術向上に必要な対策や改善点について意見交換を行う生産対策検討会の開催（1回）
 - ・環境制御装置や施肥同時かん水装置など省力化につながるスマート農業技術の導入を支援
 - (2) 夏秋いちごの生産振興
 - ・夏季の高温に対応した栽培管理技術の向上や、低コスト省力化に向けた最新技術を紹介するため、生産者や指導者を対象とした研修会の開催（1回）
- 2 花きの夏秋期生産の強化
 - ・重要品目における栽培技術向上に向けた生産者交流による現地研修会の開催（1回）
 - ・高品質安定生産に向けた花き生産者の生産意欲の高揚と栽培技術の向上を図るためのセミナーの開催（1回）
 - ・花きと野菜などとの複合経営による担い手の確保
- 3 冬春いちごを核とした冬の農業の推進
 - ・「よつぼし」の年内収量の確保に向けた栽培方法の検討（農林総研）
 - ・「よつぼし」の普及拡大に向けた現地普及展示ほの設置（2地区）
 - ・省エネ設備・資材の展示会の開催（2回）
 - ・指導員や生産者を対象とした栽培技術研修会の開催（1回）



施設園芸の自動かん水・施肥装置



赤色LED電照による開花抑制

対話

- ・部会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、意見を参考に事業構築（8月、1月）
- ・生産者、全農、農協等関係機関が出席する現地検討会、生産対策検討会を開催し、意見交換（トマト・ミニトマト：5月、7月、11月、花き：5月、7月、9月、11月、2月、いちご：7月、冬の農業：11月）